

# JSL 児童のためのイラスト付きリライト教材の作成と授業実践 —小学校の国語の物語教材を中心にして—



石をおきました。

ぼうしをかぶせました。

みかんをだしました。

松井さんは、  
なにか思いつきました。

この子は、  
がっかりするだろう。

わざわざ、「ニニニ  
おいたんだな。」

ちようちよが、  
でました。

ぼうしが、  
おちています。

松井さんは、タクシーの  
うんでんしゆです。

**育った文化の違い**

フィリピンでは、荷をもつ数が多いので、子どもには「虫をかっさらうのだめ。」と説明が聞かれています。

ブラジル人やペルー人は、昆虫を怖いものだと思っっています。子どもは昆虫を集める習慣は多くありません。

「育った文化の違い」は、授業の導入として、児童の興味を引く効果がある。また、児童の理解を深めるための教材として、効果的である。



一般の学習の展開

松井さんの気持ちを想像しよう。

自分のせいでうまくいかなかったら、何かいいことをしよう。

みかんを入れてみよう。

この子は、たけお君かな。

だれが置いたのか、分らない。落としたのだろう。

全く分らない。

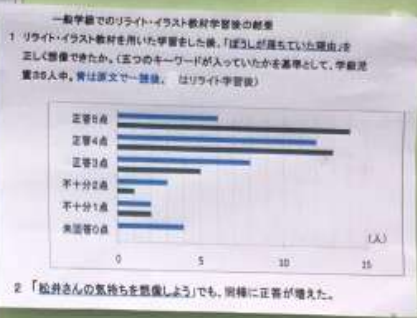
帽子からちようちよが出たといことなら、この前に取ったたけお君かな。

松井さんの気持ちが想像できない。

動作は分かるが、何故そうするのかは、はつきりとは分らない。

**JSL 児童の反応**

「この子は、たけお君かな。」という発言が、児童の間でよく聞かれた。これは、児童が物語の登場人物の気持ちを想像しようとしていることを示している。



- 学習の結果と考察**
- リライト・イラスト教材を用いることにより、JSL児童は物語に興味を持ちだし、積極的に取り組むようになった。
  - 短期リライト文で物語の構造が明確になり、JSL児童は物語のあらすじを大体理解できた。
  - 資料に掲載されている「サイドストーリー」も、中々読み取れるようになった。
  - 「育った文化の違い」で読み取れない部分があることが、リライト・イラスト教材を用いることにより、気づかなくなった。
  - JSL児童が「育った文化の違い」を説明することは難しいので、指導者が気づいて引き出すことが肝要である。
  - 一般学級でもリライト・イラスト教材を用いると、理解に効果があることが分った。
  - 今後は、リライト・イラスト教材を制作する技法の一般化を目指す。
  - 今後も、教材の芸術性や汎用性について、実験を通して検討していく。

2010年10月22日(金) 14時 14分

ひと

ジェシカ・オーレックさん

「この子は、たけお君かな。」という発言が、児童の間でよく聞かれた。これは、児童が物語の登場人物の気持ちを想像しようとしていることを示している。



「育った文化の違い」は、授業の導入として、児童の興味を引く効果がある。また、児童の理解を深めるための教材として、効果的である。